

『命と申す物は一身第一の珍宝也。

一日なりともこれをのぶるならば

千万兩の金にもすぎたり。』



（高祖日蓮聖人・可延定業御書より）

日本語で“いのち”というと「生命」とも書きます。「生」と「命」、どちら
もいのちに関係しますが、例えば、「人生」と「人命」では意味が多少違つて
きます。「人生は朝露のごとし」では随分と軽いですし、「生」というのは、こ
の世に生を受けてから死ぬまでを意味しています。

一方「人命は地球より重し」というように「命」の価値は大きく尊いもので
す。人が死んであの世に帰る日を「命日」といい、どうやら私たち日本人は、
この世のいのちを「生」、あの世のいのちを「命」と使い分けているようです。

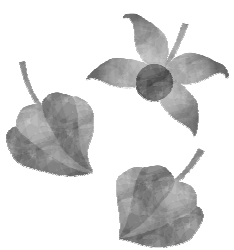
ちなみに、誕生日の「誕」という字には“いつわり”の意味があるそうです。
これはエゴ（我・利己主義・自分本位）のことを意味しているのではないでし
ょうか。つまり誕生とはエゴを外して“いのち”すなわち“永遠のいのち”に
なることを昔の人は知っていたのでしよう。

高祖日蓮聖人は、寿命というものは一身第一の宝であり、仏さまの姿（久遠
の寿命）に近づくための行いができる日を一日でも延ばし、その行いを積むこ
とができるなら、それはお金には換えられない何物にも過ぎた価値があり、法
華経信仰の真の姿であると仰っています。

私たち人間は「オギャーッ」と生まれた瞬間から、死に向かって歩いている
のではなく、生きるために生きています。とはいっても、事故や病気などで明
日死んでしまう可能性もあります。そう考えると、私たちは死に方は選ぶこと
ができませんが、生き方は選べることに気づくはずで

では、生き方とは何かと考えると、それはやはり、人の役に立つことでしょう。
どんな人も誰かのために何かの役割を果たしたいと、過去から未来に向かって
続くそれぞれの“いのち”を高め、人格を向上して仏さまの境地に一步でも近
づけるよう生まれて来ているのですから、このかけがえのない“いのち”を大
事にして喜びにあふれて生きていきたいものです。

*** 催し物のご案内 ***



◆ 秋のお彼岸 ◆

九月二十三日(土・祝) 午後2時より

お彼岸とは、六波羅蜜【布施・持戒・忍辱・精進・禪定・智慧】修行を實踐する期間のことです。

春分・秋分の日をはさんで前後各三日の七日間は、日常生活の中で自らを振り返る修行をし、ご先祖様のご供養をする大切な期間となります。

本住寺では、お彼岸の中日に、本堂にて総ての檀家さんの先祖供養の為のお経をおがんでおります。お経の途中でも、本堂の中にお入りいただいて構いませんので、お寺参りを兼ねて、是非お気軽にお参りくださいませ。お経の後には、妙紀特製・栗入りおはぎのご接待もございます。

なお、卒塔婆供養を希望される方は、別紙申込書にご記入の上お申し込みください。

◆ 本住寺 信行会 ◆ 命に合掌 ◆

本住寺では、日常生活の中で楽しく手を合わせることが出来るよう、月に一度、お題目を唱えることを中心に、お経や作法を楽しく実践する『信行唱題会』と、本堂で心静かに観音経のお写経をする『観音経写経会』を開催しております。御宝前の仏様に手を合わせて、お経やお題目を通して神仏やご先祖様の存在を身近に感じ、楽しい毎日を過ごすきっかけとしてみてはいかがでしょうか？
初心者歓迎！ どなた様でも簡単にご参加いただけます。必要な道具等はお寺に揃っておりますので、興味がある方は是非お気軽にお越しください。

信行唱題会 毎月第2火曜日 午後2時より
観音経写経会 毎月第3土曜日 午前9時～午後7時の間、いつでも。

妙見山本住寺

倉敷市真備町服部一五八七

☎ 〇八六(六九八)九七七〇

🌐 <http://www.honjuzi.com/>

*仏事に関すること等でお悩みやお困り事等がございましたら、お気軽にご相談ください。
*法事のご予約はお早目にお願いたします。お寺の都合により、ご希望される日時でもお受けできない場合がございますので、ご了承ください。